

第32回



生きている地球の記録

グリーンイメージ国際環境映像祭入賞作品等上映会

入場無料 | 定員220名

2026
7/26日 (開場9:30)
10:00~15:35

FUJIなごや科学館

(名古屋市科学館) (株)FUJIは名古屋市科学館の
ネーミングライツ・スポンサーです。

生命館地下2階サイエンスホール

地下鉄「伏見駅」4番・5番出口徒歩約5分
市バス「広小路伏見」または名鉄バス「白川公園前」下車

主催 公益財団法人三菱UFJ環境財団・
名古屋市科学館

共催 グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会

後援 愛知県教育委員会・中日新聞社

Screening Schedule

10:00~10:30

第4回グリーンイメージ賞

林こずえの業

(日本/30分)

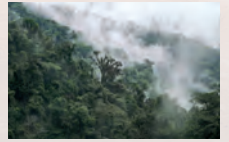


10:40~11:42

第5回グリーンイメージ賞

黄昏のコーラス

(イタリア/62分)



昼食休憩

12:40~13:53

第9回映像祭参加作品

明日をへぐる

(日本/73分)



14:10~15:35

第9回映像祭参加作品

紅花の守人

(日本/85分)



※「林こずえの業」は2017年(第24回)に上映しており、再上映となります。その他の作品は、これまでの上映会では未上映の作品です。
※海外作品は、日本語字幕もしくは日本語吹き替えとなります。プログラムは変更することがございます。

申込方法

観賞ご希望の方は、往復はがきに郵便番号、住所、応募者全員の氏名と年齢(中学生以下・高大生・大人)、電話番号、返信用の住所・宛名を記入して下記まで申し込むか、インターネットにてお申しください。(はがきは1葉5名様まで、応募者多数の場合は抽選。)※重複申込があった場合は全ての申込が無効となります

照会先: FUJIなごや科学館(名古屋市科学館)「生きている地球の記録」係 TEL(052)201-4486
あるいは(公財)三菱UFJ環境財団 TEL(03)5730-0337 FAX(03)5232-0312

往復はがき

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号
FUJIなごや科学館「生きている地球の記録」係

インターネット/名古屋市電子申請サービス

<https://ttzk.graffer.jp/city-nagoya>
こちらから「科学館 生きている地球の記録」
で検索してください。



応募締め切り

2026年7月3日(金)必着

取得した個人情報は本事業の
運営目的以外には使用しません

生きている 地球の記録

2026年7月26日(日) 上映作品紹介



第4回グリーンイメージ賞

10:00~10:30
林こずえの業

(日本 / 30分)

新米林業作業員である林こずえの1日が今日も始まる。徳島県山間部を舞台に、重機を駆使した近代林業の現状をドキュメンタリータッチで描いた作品。自然を讃えるとともに、山で生きる人々への敬意を込めた人間讃歌。

再上映【2017年の上映作品】

日本 / 2016 / 30分
プロデューサー・監督：蔦 哲一朗
製作：一般社団法人ニコニコフィルム



第5回グリーンイメージ賞

10:40~11:42
黄昏のコーラス

(イタリア / 62分)

世界でも最も生物多様性豊かなエクアドルの人里離れた原生林の奥深く。自然そのもののたゆまなく続く様々な「音」を探り、そこで24時間3Dサウンドスケープを録音することで、そこにある様々な命、多様性を探求する。それは、今や消えようとしている、何万年もの進化の音の遺産の断片を聴く、比類なき経験である。

イタリア / 2016 / 62分
プロデューサー：ハイディ・グロナウアー・ロレンツォ・バッカニエツラ
監督：ニカ・サラヴァーニャ & アレックスandro・デミリア
製作：ZeLIG-School for Documentary

昼食休憩



第9回映像祭参加作品

12:40~13:53
明日をへぐる

(日本 / 73分)

土佐和紙の原料となる楮(こうぞ)をめぐる山里の人々の暮らしを記録したドキュメンタリー。高知県の中でもローカルな方言である「へぐる」は、特殊な包丁で土佐楮(こうぞ)の皮から表皮部分を削ぎ取る作業のことを指す。和紙の原料である楮(こうぞ)を栽培し紙を漉いてきた人たちの暮らしを映し出すとともに、余裕が失われてしまった現代社会の日常を見つめ直す。千年残るといわれる和紙にこれからも刻まれていく私たちの歴史。ゆるやかな時の流れ。楮を守り育ててきた山里のいまを見つめる。

日本 / 2021 / 73分
プロデューサー：山下 徹二郎
監督：今井 友樹
製作：シグロ



第9回映像祭参加作品

14:10~15:35
紅花の守人

(日本 / 85分)

中近東から中国に渡り、日本に伝来した紅花。染料として皇室でも珍重された染料でありながら、明治以降の化学染料の台頭、第二次世界大戦中に国による栽培禁止で、その文化は危機に瀕することとなった。本作は、科学染料では出せない繊細な色を追求する職人や農家、文化を繋ぐ人々を4年の歳月をかけて追った記録。映画「おもひでぼろぼろ」で紅花農家に手伝いに行くタエ子役の声優を担当した今井美樹がナレーションを担当。

日本 / 2022 / 85分
プロデューサー：高橋 卓也
監督：佐藤 広一
製作：映画「紅花の守人」制作委員会

※「林こずえの業」は2017年(第24回)に上映しており、再上映となります。その他の作品は、これまでの上映会では未上映の作品です。

※海外作品は、日本語字幕もしくは日本語吹き替えとなります。プログラムは変更することがございます。